

コロナ禍における食支援活動に関するアクションリサーチ

健康デザイン学科 4B 長澤冴花 指導：黒谷佳代

1 背景

新型コロナウイルス感染症流行下の2020年7月、東京都調布市で市民や大学教員らが「学生応援フードパントリー調布」という食支援活動の実行委員会を立ち上げた(表1)。大学を限定せず調布市に関わる学生を対象に無料で食料を配布すること、食生活や栄養面でのサポートの他に、利用者が“社会的つながり”を感じられるあたたかい場所を提供することが本活動の最大の特徴である。

2 目的

「学生応援フードパントリー調布」の活動プロセスを記述し、利用者との社会的つながりを形成するための取り組みや、その効果の検討についてまとめることを本アクションリサーチの目的とする。

3 方法

- 研究デザイン：アクションリサーチ
- 活用データ：実行委員会代表の大学教員1名へのヒアリング調査内容
フィールドノート、活動時の画像記録
実行委員会6名を対象としたアンケート結果
- 支援対象：調布市に在住の大学生・専門学生または調布市に所在地のある大学・専門学校に通う学生
- つながり形成の取組：2020年12月(第2回)に公式Twitter、2021年1月に公式Instagramを立ち上げ、イベント開催の周知や配布食材で作れるレシピ紹介を投稿。第3回、第4回開催時にも同様にSNSを活用した。第4回開催時には、SNSの活用だけでなく栄養学生がレシピ紹介をする場を設け、利用者と直接話す機会を作った。

4 結果

- 2022年2月現在、4回のフードパントリーを開催した。運営体制を表2に示す。
- 配布食材は、本学学生が栄養バランスに配慮し、考案した2-3日分の各食事の献立に基づき、食材を選定し、食材とあわせて手作りのレシピやリーフレットを提供した(表3・4、図1)。また、レシピ等の情報を、SNSを通じて発信した。(図2)
- 2021年6月(第3回)開催後にInstagramへのダイレクトメッセージはなかった。
- 2021年11月(第4回)開催時、利用者の声を直接聞くためレシピ紹介を行い、利用者70名のうち、20名の学生と話すことができた。その際、以前利用した時に食材キットに入っていた食品を気に入り今でも買っているという意見や、一人暮らしであまり多くの野菜を使わず、使いかけの野菜を腐らせてしまうのはどうしたらいいか?という質問があった。
- 2021年11月・12月(第4回開催後)直接話した利用者1名から、実際にレシピを作った写真が2件届いた。周知に関して、活動当初は大学教員の授業や顧問を務める部活動での呼びかけ程度だったが、次第に電気通信大学の学内メールや他大学にまで周知できるようになった。

年月日	内容
2020年2月	新型コロナウイルス蔓延のため、調布市子ども食堂ネットワーク有志が食支援の形態を子ども食堂からフードパントリーへと移行した。段ボールに食品を詰めて配送する“宅食”にも対応。
2020年7月10日	近隣である東京外国語大学執行部が東京外国語大学生限定でフードパントリーを実施した。
2020年7月	調布市民が東京外国語大学でのフードパントリーを知り、調布でも学生のための食支援の活動を始めたいと調布市社会福祉協議会に相談した。調布市子ども食堂ネットワークに参加していた住民らに声をかけた。
2020年8月28日	会議1：学生応援フードパントリー調布実行委員会発足 調布市社会福祉協議会にて初の顔合わせを行なった。
2020年9月2日	会議2：開催日時、場所など決定
2020年9月8日	会議3：配布食材などを決定
2020年9月10日	周知開始
2020年10月13日	前日準備
2020年10月14日	第1回学生応援フードパントリー調布開催

項目	内容
運営主体	地域住民、大学教員による実行委員会
活動テーマ	調布市に関わる学生を対象に、コロナ禍における食支援や社会的つながりの形成
実行委員会総数	9名
内訳	調布市内大学教員 1名 市民ボランティア 1名 調布市社会福祉協議会職員 3名 昭和女子大学栄養系教員 1名 昭和女子大学健康デザイン学科学生 3名
運営資金	開設時 地域住民からの寄付 現在 地域住民からの寄付
配布内容	第1回 フードバンク調布への寄付食品と日用品 第2回 栄養学生が考案した食材キット、寄付食材、日用品 第3回 栄養学生が考案した食材キット、寄付食材、日用品 第4回 栄養学生が考案した食材キット、寄付食材、日用品
配布食材の基準	エネルギー、PFC比、予算を考案

※2021年11月末時点

回数	対象人数	約
第1回 2020年10月14日	対象人数	約80名
	配布食材	フードバンク調布で集めた寄付食品
第2回 2021年2月6日	対象人数	50名
	食数	3日分(9食)
	一人あたりの予算	4000円
	配布食材	栄養学生が考案
第3回 2021年6月19日	対象人数	70名
	食数	2日分(6食)
	一人あたりの予算	3000円
	配布食材	栄養学生が考案
第4回 2021年11月27日	対象人数	70名
	食数	2日分(6食)
	一人あたりの予算	3000円
	配布食材	栄養学生が考案

図1 第4回開催時(2021年11月)に配布したレシピ集

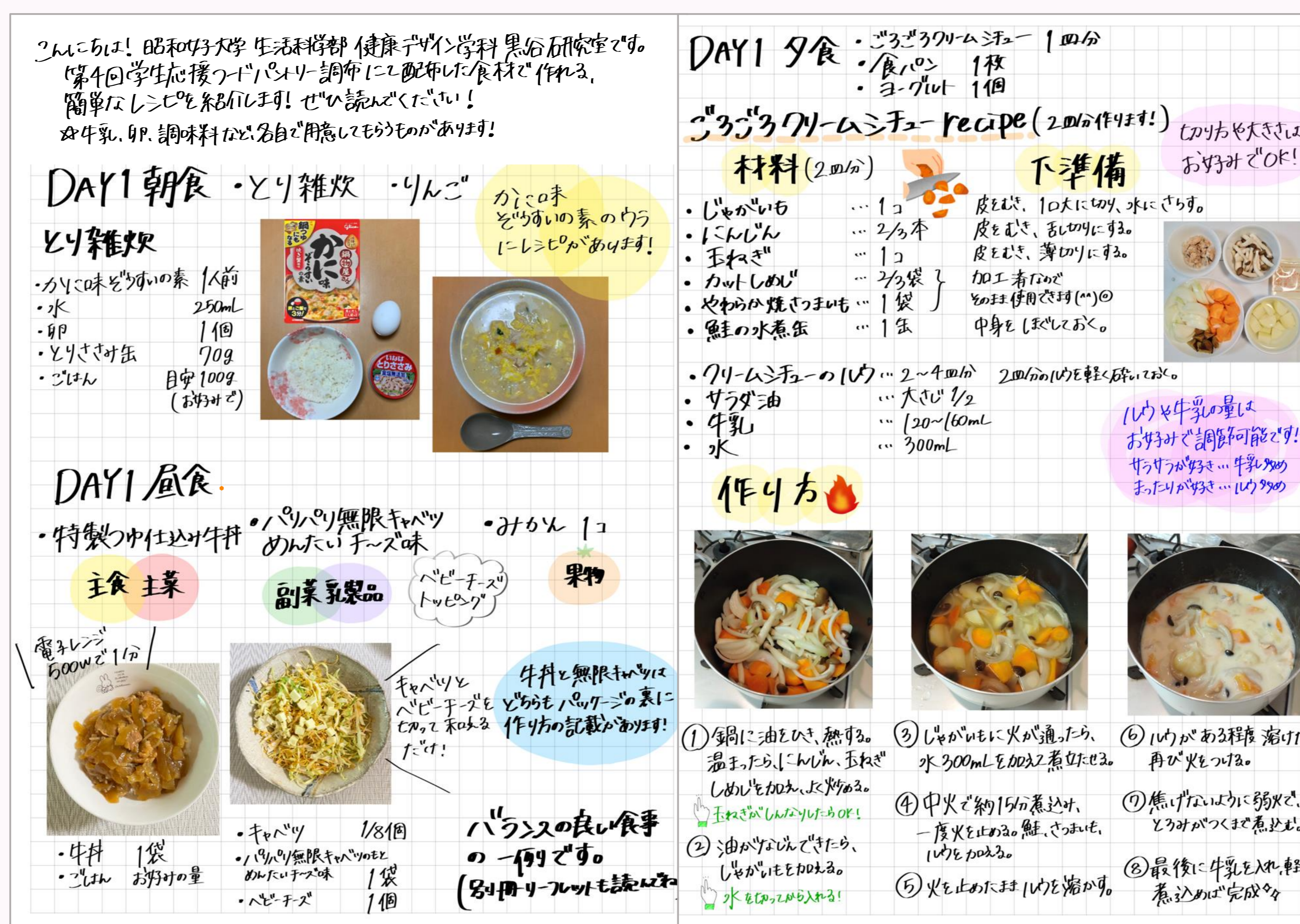
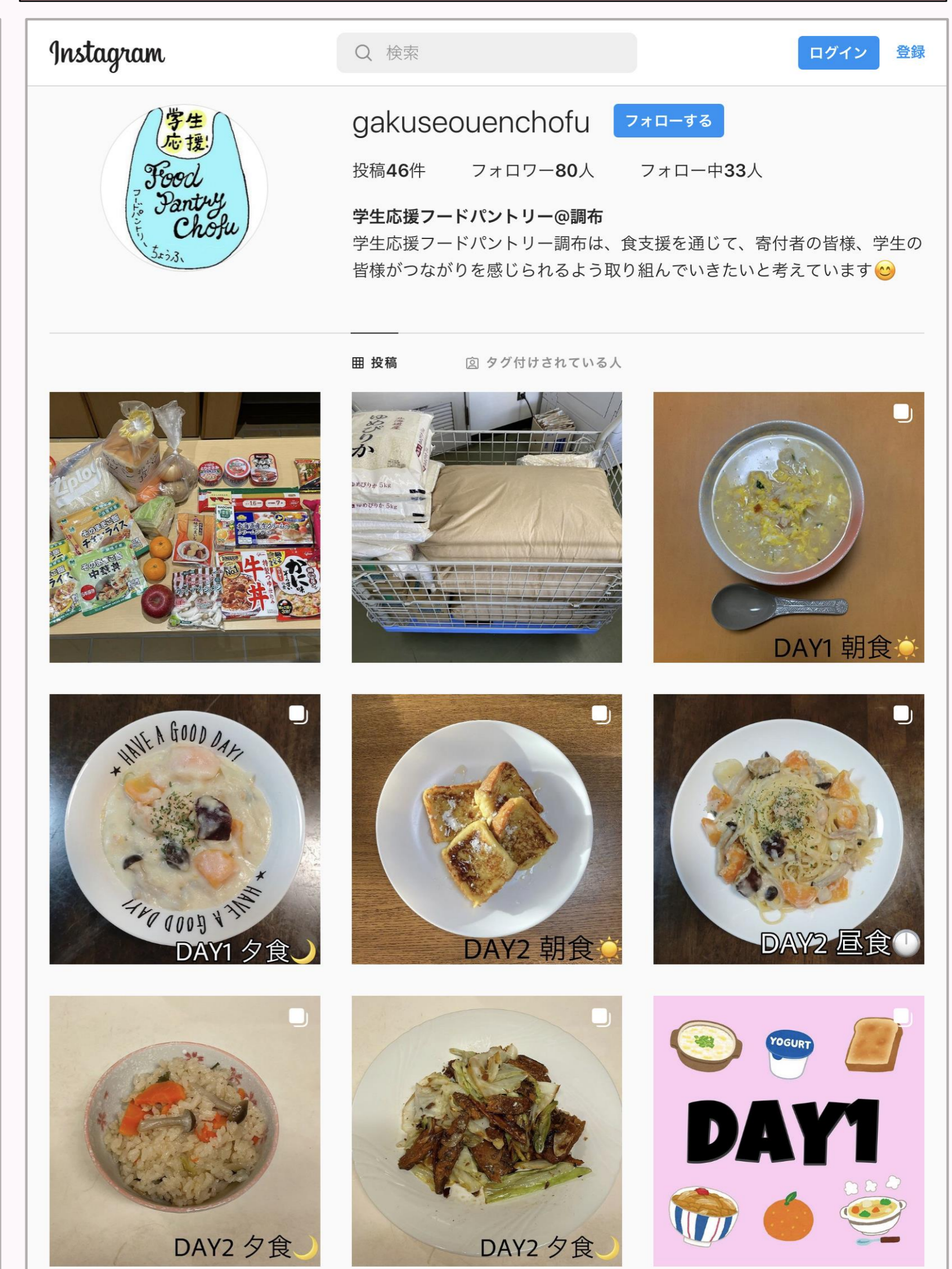


図2 学生応援フードパントリー調布公式Instagram



項目	1日合計	2000kcal前後
朝食	500kcal	
昼食	700~800kcal	
夕食	700~800kcal	
エネルギー値		
PFC比	Protein(たんぱく質)	13~20%
	Fat(脂質)	20~30%
	Carbon(炭水化物)	50~65%

5 考察

第3回(2021年6月)開催時は社会的つながりを形成できたとは言えない。ダイレクトメッセージ(DM)が届かなかったのは、感想や写真を運営スタッフである同年代の女子大学生に見られること、生活感が伝わってしまうことが懸念され、送ることへのハードルが高いのではないかと考えられる。一方で第4回(2021年11月)開催時、本学学生が、一部の利用者を対象に、生活状況や自炊頻度などをヒアリングし、調理に関する相談や簡単な調理法の紹介をした。その際、料理写真をSNSのDMで送ってもらうよう依頼した結果、利用者1名からDMをもらい、相互でやりとりができた。また、寄付をしてくれた市民の中には外出が得意ではなかったが本活動が外に出るきっかけになり、学生のための行動をしたという方がいた。このような結果よりフードパントリーの活動が、利用者だけでなく支援者においても、社会的つながりを感じるきっかけになったことが示唆される。今後は、活動の認知の幅を広げ寄付を増やすことや、利用者からもっと多くのフィードバックをもらい、より学生の生活に寄り添い、ニーズに応えることが必要であろう。

6 結論

「学生応援フードパントリー調布」において、実行委員会に参画し、アクションリサーチに基づき、立ち上げから第4回開催までのプロセスをまとめた。栄養学生の参画による栄養バランスに配慮した食材および情報提供はできたものの、利用者の社会的つながりの創出は不十分であった。今後の活動において、社会的つながりの創出に重点を置いた取組みが必要と考える。